中國新聞
8月7日(火)
発行所
広島市中区上柳町7番1号
〒730-8677
中国新聞社
電話(082)236-2111(受付案内台)
郵便振替口座 01370-0-57
ホームページ
http://www.chugoku-np.co.jp/

「平和と人道の世紀」に全力

被爆56年祈念式　核廃絶へ継承強調

広島市長が宣言

人類史上初の原爆投下から五十六年たった六日、原爆犠牲者慰霊式・平和祈念式の「世界平和祈念式典」が広島市中区の平和記念公園であり、五万人（市発表）が参列した。秋葉忠利市長は世紀最初の「平和宣言」で、二十一世紀を「核の世紀」にするかどうか見方を変える決意を表明した。

【2・3・6・7・15・24・26・27・30・31面に関連記事】

午前八時、式典が始まり、小泉純一郎首相や、小泉純一郎首相は四千七百九十三人（前年比三百九十三人）の遺族代表や外国の大使らが献花した。

八時十五分、「平和の鐘」を合図に参列者全員が黙とうをささげた。式典の後、秋葉市長は平和宣言を朗読した。「世界の指導者には核兵器廃絶への強い意志を求める」と訴えた。

秋葉市長は、被爆者の記憶と責任感、意志を新たにし、世代に伝えることが「人類が二十一世紀を生きる第一歩」と強調、政府に「核の傘」からの脱出、核兵器の廃絶へ、国際社会を動かす努力を求めた。

宣言で、秋葉市長は「21世紀を『平和と人道の世紀』とし」、核兵器の廃絶へ、「世界の指導者には核兵器廃絶への強い意志を求める」と訴えた。

秋葉市長は、被爆者の記憶と責任感、意志を新たにし、世代に伝えることが「人類が二十一世紀を生きる第一歩」と強調、政府に「核の傘」からの脱出、核兵器の廃絶へ、国際社会を動かす努力を求めた。

この一年間にでてきた「人道支援」の考え方を、「新たに死に方が確定する人」と表現した。

「人類は、核の存在を容認するかどうか、見方を変える時期にきている」と述べ、「核兵器の廃絶へ、国際社会を動かす努力